

西真寺 寺報

平成二十九年 夏号

挨拶

慈光照護のもと、ご門徒の皆様にはますますご健勝にて念仏相続に御精勵のことと、お喜び申し上げます。

ご案内の通り、この四月より家族全員が村上に移住致しました。子供たちも新しい環境に慣れ、村上で生活を楽しんでおります。

思春期の真っ只中にある中学二年の長男のことが一番心配でした。しかし、親の心配をよそに、ソフトテニスのクラブ活動を中心

に日焼けした顔で元気に東中学校に通っているので一安心です。また、小学四年の次男は、毎日学校であったことを詳しく聞かせてくれ、その背景にある心にふれさせてくれます。子供たちが言うには、

村上的お友達はみんなやさしくておもしろいと言います。いかに村上的子供たちがピュアであるかを教えてくれるのです。

私自身の生活は、今まで通り新潟と村上の往復が基本ではありませんが、家族が村上に居てくれるだけで随分と安心して寺役を勤める

ことができます。家内も毎日寺の為に身を呈して働いてくれていま

す。言い換えれば、お寺の掃除と食事の心配が無くなっただけでも集中して求道し、お勤めすることができるといふことになりました。

さて、先日の前住職ならびに前坊守の一周忌法要に御参詣頂き、また丁寧なるご厚志を賜り、誠に有難うございました。また、この

6月8日、本山にて住職補任式を経て西真寺第十六代住職を拜命致しましたことを併せて仏前にてご報告させて頂きました。ご門徒の

合掌

釋直徳

■浄土真宗と禅宗の違いについて（後編）

親鸞の思想は、戒律を守った法然が出来なかつた実生活における問題や家族の苦悩と体験の上で成立しています。この思想は、実社会を修行の場とする私たちに輝きを持って示してくれていると思えます。この思想背景は禅宗にはありません。

法然が得られなかつた実践とは、仏教の教えに耳を傾け、実生活における経験をを通して気づきを得ることにあります。すなわち仏法を信知（信心）し、これを身につけていくことに本来の修行があるのではないのでしょうか。これを仏教では、聞・思・修の「三慧」の実践といえます。

明治以降日本を代表する哲学者で『善の研究』で有名な西田幾多郎は若くして禅に目覚めました。四人の子供、妻、親友にも先立たれ後に「自力無功」を知り、「深く己の無力なるを知り、己を棄てて、絶大の力に帰依する」と述べています。（わが子の死）

西田は最後の論文の中で、「私は此から浄土真宗的に国家というものを考え得るかと思う。国家とは、此の土において浄土を映すものでなければならぬ」と書いています。西田は戦前戦後を通じて浄土真宗に傾倒していきました。西田には、実社会における家族の問題を仏教に照らし合わせ、常に自己を問う「三慧」に対する姿勢がありました。

西田は子供の死を仏縁として他力に目覚め浄土真宗に開かれていったことが分かります。因みに「親鸞」を絶筆した三木清は西田の教え子です。また、西田に禅を教えたのはアメリカに禅を

広めた鈴木大拙で、西田の親友です。

鈴木は親鸞の『教行信証』を英文に訳し、浄土真宗もアメリカ人に伝えていきます。鈴木は禅と浄土真宗について「禅といい、浄土と違って、知的解釈の相違するところに、対抗的意識を養い行く。されど両者の心理的経験に関する限り、根本的には同一であると、余は確信する」と述べています。

浄土真宗と禅宗は、仏道の入り口は異なりますが、目覚めに至る宗教経験には違いがないことが理解できます。両者が互いに對抗したり、比べる事は不毛な行いに値するのかもしれない。

現在アメリカを中心に科学的に実証され、医療、心理療法、教育、福祉、産業、軍隊、スポーツで採用され、ストレス軽減法、集中力や免疫力向上、うつ病の再発防止に活用されているマインドフルネス瞑想があります。マインドフルネス瞑想とは、本来パリー語で仏教の「念」に対応する概念です。(アメリカでは仏教徒数が過去40年間で17倍増え仏教に影響された人を含めれば3千万人いると言われる)

「念」とは、自分の呼吸に意識を向け記憶することを意味していますが、この瞑想における対象が仏になり阿弥陀仏を憶念することが念仏となります。現在アメリカの浄土真宗の寺では念仏メディテーション(念仏を唱えながらの瞑想法)を実践しており、日本では私の修士論文の指導教授のケネス田中先生が提唱しています。これこそ禅宗と浄土真宗の垣根を超えた実践であり、実生活における仏道「三慧」の実践の入り口かもしれません。

■真宗門徒の詩

お前はお前でちよとよい 顔も体も名前もせいも おまえにそれはちよとよい 貧も富も親も子も息子の嫁も その孫もそれはお前にちよとよい 幸も不幸もよろこびも悲しみさえもちよとよい 歩いたお前の人生は 悪くもなければよくもない お前にそれはちよとよい 地獄に行こうと極楽に行こうと 行つたところが、ちよとよい うぬほれる要もなく 卑下するようもない 死ぬ日月さえもちよとよい 仏様と二人つれの人生 ちよとよくないはずがない これではよかつたといただけた時 億念の信がひらかれます(前川五郎松)

■編集後記

長く子供の精神疾患を覗てきた精神科医の山中康裕が京都大学を定年退職する際、カウンセラーからカワ(川)ンセラーに転身しました。主な仕事は、河川や樹木の汚染の調査防止、生態系保全、環境保全の他に子供たちと川のつながりを取り戻すことです。それは、河川が汚れるほど人との関係性が喪失し、子供たちの心が病むことを知ったからです。このことから村上の子供たちが鮭や川との関係性によりピュアであることが、理解できます。因みに極楽浄土を英訳すると「ピュアランド」といいます。合掌

■西真寺 行事のご案内 西真寺報恩講 十月八日(日曜日)

■次号は「地域における老人と子どもとの関係の再構築について」を予定しています。

